

課目名	関係法規						
課目名(英)							
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	福浦 ユサミ		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	調理師専門学校勤務(衛生法規担当)		
対象学科・学年	美容科 2年						
授業概要	法制大意、衛生行政、美容師法の概略を理解するとともに、関連する法規に対する理解を深めることにより、授業の後、各单元ごとに基本的な問題を解き、国家試験対策として過去問題を1回から41回まで解くことにより国家試験合格を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					法制度の概要(社会生活における法の役割、法の形式等)を説明することができる。	
	○					衛生行政の概要(衛生行政とは、衛生行政を担う行政機関)を説明することができる。	
	○					美容師法(目的、構成、美容師・美容所に関する規定、行政処分等)を説明することができる。	
	○					関連法規(運営・衛生・消費者保護)に関する法律を説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書 プリント(基本練習問題・過去問題・応用問題)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	法制度の概要 I・II 社会における法の役割、衛生法規とは				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	衛生行政 I・II 衛生行政の運用について、保健所の役割と機構				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	美容師法の目的・構成附属法令、法の運用にあたる行政機関				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	用語の定義・美容師養成施設・美容師試験 受験資格等				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	美容師免許・美容師免許とは、欠格条件について				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	美容師免許登録・免許申請手続き、免許の効力等				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	美容師の義務・免許の変更手続き 遵守義務、具体的な変更手続き				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	業務停止等・管理美容師とは 管理美容師の資格取得等				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	美容所の開設・開設届、提出先、検査確認、変更等				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	開設者の義務・美容所以外での業務・立入検査				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	行政処分・罰則 具体的な処分及び罰則とは				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	関連法規 美容業を行う際の関係ある法律について				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	国家試験対策 過去問題を解く				復習をしておく	
	14	国家試験対策 過去問題を解く				復習をしておく	
15	国家試験対策 応用問題を解く				復習をしておく		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する (2)授業態度は、出席・提出物・授業中の居眠りの回数などで評価する 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					80%
	授業態度				○		20%
履修上の注意	語句が難しいので、文章をよく読んで何が書かれているかを理解するように心がけて下さい						

課目名	化粧品化学Ⅱ						
課目名(英)	Cosmetic Chemistry Ⅱ						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	渡邊正明		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	2018年化粧品・化学教員資格取得		
対象学科・学年	美容科 2年						
授業概要	化粧品における化学物質の名称とその作用についての基礎的な知識定着を図るとともに、国家試験の傾向をつかみ対策を行うことで、国家試験化学分野での満点取得を目指す。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					化粧品の性状や使い分けが説明できる	
	○					社会的な意義や法的な根拠および安全性について学び、それに関する選択問題の与えられた選択肢の中から適切な答えを判断することが出来る。	
テキスト・教材 参考図書	日本理美容教育センター 化粧品・化学						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1章 化粧品概論 復習				授業で使用するプリントは必ずファイルに綴じておくこと。	
	2	2章 化粧品用原料 復習				授業で使用するプリントは必ずファイルに綴じておくこと。	
	3	3章 基礎化粧品 復習				授業で使用するプリントは必ずファイルに綴じておくこと。	
	4	4章 メイクアップ用化粧品 復習				授業で使用するプリントは必ずファイルに綴じておくこと。	
	5	5章 頭皮・毛髪用化粧品 復習				授業で使用するプリントは必ずファイルに綴じておくこと。	
	6	6章 芳香製品と特殊化粧品 復習				授業で使用するプリントは必ずファイルに綴じておくこと。	
	7	基礎化学 復習				授業で使用するプリントは必ずファイルに綴じておくこと。	
	8	国家試験 過去問題演習 ①				授業で使用するプリントは必ずファイルに綴じておくこと。	
	9	国家試験 過去問題演習 ②				授業で使用するプリントは必ずファイルに綴じておくこと。	
	10	国家試験 過去問題演習 ③				授業で使用するプリントは必ずファイルに綴じておくこと。	
	11	国家試験 過去問題演習 ④				授業で使用するプリントは必ずファイルに綴じておくこと。	
	12	国家試験 過去問題演習 ⑤				授業で使用するプリントは必ずファイルに綴じておくこと。	
	13	国家試験 過去問題演習 ⑥				授業で使用するプリントは必ずファイルに綴じておくこと。	
	14	国家試験 過去問題演習 ⑦				授業で使用するプリントは必ずファイルに綴じておくこと。	
15	国家試験 過去問題演習 ⑧				授業で使用するプリントは必ずファイルに綴じておくこと。		
評価方法	(1)定期試験(筆記) (2)小テストを2回実施 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					70%
	小テスト	○					30%
履修上の注意	試験はほぼ授業内容からの出題となる。授業で配布するプリントが試験範囲そのものとなる。試験は国家試験内容を前提とし、語句などの知識問題、そして国家試験のように文章を読んで正誤を判断する問題などを多く扱う。						

課目名	ヘアテクニック (シャンプー&ブロー)						
課目名(英)	syampoo & blow						
単位数	1単位	時間数	10時間/30時間	担当者	吉田 荒木 江藤 西依		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	サロンに美容師として勤務		
対象学科・学年	美容科2年						
授業概要	サイドシャンプー及びバックシャンプーの技術工程を理解し、反復練習を実施することで卒業後の即戦力となり得る技術習得を目指す。また、基本のブローテクニックをモデルに対して練習していく事で、ウィッグでは体感できない注意点を理解する。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○			バックシャンプーの手順を覚え、手技を習得する	
				○		お客様への施術を通して、快感をあたえ、心身のリラクゼーション効果を高めるよう配慮できる	
			○			即戦力となるレベルのシャンプー技術を習得する	
			○			ブローのテクニックを実施し、様々なヘアスタイルに対してのスタイリングの工夫ができる	
			○			ブローテクニックを人頭で実施する事で、その注意点やテクニックを理解する	
テキスト・教材 参考図書	日本理美容教育センター 美容技術理論 I シャンプー&ブロー道具一式						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	バックシャンプー 手順の確認・復習			バックシャンプー の手順を事前に確認しておくこと		
	2	ブロースタイリング 相モデルによるハンドブローテクニック			ブローの基本技術を事前に復習しておくこと		
	3	バックシャンプー プレーンリンスのテクニック			ストロークの練習をしておくこと		
	4	ブロースタイリング 相モデルによるストレートブローテクニック			ブローの基本技術を事前に復習しておくこと		
	5	バックシャンプー あわ立てとストロークの大きさ・強弱			ストロークの練習をしておくこと		
	6	ブロースタイリング 相モデルによるストレートブローテクニック			前回の技術を事前に復習しておくこと		
	7	バックシャンプー トリートメントテクニック			ストロークの練習をしておくこと		
	8	ブロースタイリング 相モデルによる内巻きブローテクニック			前回の技術を事前に復習しておくこと		
	9	サイドシャンプー 手順の確認・相モデルによる反復練習			ストロークの練習をしておくこと		
	10	ブロースタイリング 相モデルによる内巻きブローテクニック			前回の技術を事前に復習しておくこと		
	11	サイドシャンプー 相モデルによる反復練習			ストロークの練習をしておくこと		
	12	ブロースタイリング 相モデルによる似合わせブロー			前回の技術を事前に復習しておくこと		
	13	サイドシャンプー・バックシャンプー 相モデルによる反復練習・実技テスト			実技テストの準備をしておくこと		
	14	サイドシャンプー・バックシャンプー 相モデルによる反復練習・実技テスト			実技テストの準備をしておくこと		
15	サイドシャンプー・バックシャンプー 相モデルによる反復練習・実技テスト			実技テストの準備をしておくこと			
評価方法	(1)実技テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		実技テスト		◎			90%
		授業態度			◎		10%
履修上の注意	特段の事情を除いて、授業は休まないでください。授業中の私語は、厳禁です。復習は必須です。						

課目名	デザイン(デッサン)						
課目名(英)	design						
単位数	1単位	時間数	「16時間」/「30時間」	担当者	仲 真市		
実施年度	2020	実施時期	後期	担当者実務経験	美術作家歴30年(活動中)		
対象学科・学年	美容科2年						
授業概要	線の基本的要素から始まり、明暗・陰影の現象を再認識することで、形とボリュームの捉え方を学び、また、色彩学の基礎を理解させることで美容業のカラー、メイクアップとの関連付けができ、より深い知識が備わる。デッサンを通して美を追求する力と感性を育む。それらは就職しその後の成長時に大きく寄与する。鉛筆を用いて線描 > 優美な線の表現を身につける、濃淡による陰影表現 > 目で得る情報を分析し再構築して画面に表現する。視る力は感性を通して手技の身体能力たる描写力に直結する、逆に描写力養成は感性を育む。感性は手仕事、表現に必須である。絵具と筆を用いて色彩効果を学習し、人物が備える色彩を混色で的確に表出する。色彩が量感、空気感をも表現することを各々感得することを目論む。ちょっとした違いに気付くことが大切、ちょっとした差が「凡庸」と「非凡」の大差である。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法: ○ その他: △		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				色彩体系を習得できる。	
		○	○			人物の骨格を表現できる。	
		○	○			毛髪の流れと量感を表現できる。	
		○	○			画材による中間色の機微を表現できる。	
テキスト・教材 参考図書	必要に応じてA4印刷物、A4画用紙を配付。デッサン道具一式。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	色彩演習－色彩の体系を説明。原色のみで混色し色相環制作。いくつかの具体例を混色で再現する。				各回で制作する作品を期日までに仕上げる。	
	2	色彩演習－指定の色を短時間で再現する演習。					
	3	人物イラストレーション－人物の写真を使ってフルカラーイラストレーションを制作する。トレーシング。					
	4	人物イラストレーション－眼を描く。細密な筆遣いを心がける。					
	5	人物イラストレーション－眼唇の形状と色彩を観察する。皮膚の色味を再現する。					
	6	人物イラストレーション－毛髪の明暗変化を観察し再現する。量感を獲得する。					
	7	人物イラストレーション－完成、合評する。					
	8	人物デッサン－互いにモデルになり、鉛筆で素描する。全身の比率を学ぶ。					
評価方法	(1)各回で制作する作品を丁寧に仕上げる。(2)提出日時に提出する。(3)態度・意欲に関しては、作品の完成度・観察力・技量・集中力・思考力によって評価する。 下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	作品、配付物			◎	○		100%
履修上の注意	提出物(≠切遵守)、無遅刻無欠席。						

課目名	専門選択 (ヘアデザイナーコース)/カット&ブロー						
課目名(英)	hairs designer course						
単位数	5単位	時間数	50時間/150時間	担当者	藤野 善友		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	美容師歴12年 (現在も美容師として働いている)		
対象学科・学年	美容科 2年						
授業概要	頭の骨格を理解し、スタイルに合わせた技術、スライスのとり方を自分達で考えヘアスタイルを切れるようになる						
授業形式	講義: △	演習:	実習: ○	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他		
	○				骨格を理解し説明できるようになる		
			○		ヘアスタイルに合わせたスライスを取れるようになる		
			○		提示したヘアスタイルを切れるようになる		
	○	○			展開図を書けるようになる		
		○		ヘアスタイルに合わせたスタイリングができるようになる			
テキスト・教材 参考図書	カット用具一式、ノート、必要に応じてA4プリント、スタイル写真を配付						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション					
	2	個性心理学			前回配ったプリントを読み返しておくこと		
	3	骨格学			前回配ったプリントを読み返しておくこと		
	4	骨格学2			前回配ったプリントを読み返しておくこと		
	5	座学(スライスの取り方と意味)			前回配ったプリントを読み返しておくこと		
	6	実習1(スタイルに合わせたスライスを取っていく)			前回配ったプリントを読み返しておくこと		
	7	スタイル作成1			前回配ったプリントを読み返しておくこと		
	8	スタイル作成2			前回配ったプリントを読み返しておくこと		
	9	スタイル作成3			前回配ったプリントを読み返しておくこと		
	10	スタイル作成4			前回配ったプリントを読み返しておくこと		
	11	スタイル作成5			前回配ったプリントを読み返しておくこと		
	12	スタイル作成6			前回配ったプリントを読み返しておくこと		
	13	スタイル作成7			前回配ったプリントを読み返しておくこと		
	14	スタイル作成8			前回配ったプリントを読み返しておくこと		
	15	スタイル作成9			前回配ったプリントを読み返しておくこと		
	16	スタイル作成10			前回配ったプリントを読み返しておくこと		
	17	スタイル作成11			前回配ったプリントを読み返しておくこと		
	18	スタイル作成12			前回配ったプリントを読み返しておくこと		
	19	スタイル作成13			前回配ったプリントを読み返しておくこと		
	20	スタイル作成14			前回配ったプリントを読み返しておくこと		
	21	スタイル作成15			前回配ったプリントを読み返しておくこと		
	22	スタイル作成16			前回配ったプリントを読み返しておくこと		
	23	スタイル作成17			前回配ったプリントを読み返しておくこと		
	24	スタイル作成18			前回配ったプリントを読み返しておくこと		
	25	スタイル作成19			前回配ったプリントを読み返しておくこと		
	26	スタイル作成20			前回配ったプリントを読み返しておくこと		
	27	ヘアスタイル作品作り1(理論テスト)			前回配ったプリントを読み返しておくこと		
	28	ヘアスタイル作品作り2(テスト)			今までのプリント、ノートを見返しておくこと		
	29	ヘアスタイル作品作り3(テスト)			今までのプリント、ノートを見返しておくこと		
	30	ヘアスタイル作品作り4(テスト)			今までのプリント、ノートを見返しておくこと		
評価方法	(1)授業の中で小テストを1回実施する(2)筆記テストを実施する (3)作品を時間内に創れるかテストを実施する。 以上を下記の観点、割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記テスト		○	○			30%
	小テスト		○				20%
	発表・作品		○	○	○		50%
履修上の注意	毎回の授業をしっかりと集中して取り組むこと。 技術の上達はまず真似ること、一つ一つの作業を丁寧に自己流にならずに取り組むこと。						

課目名	専門選択（ブライダルスタイリストコース）/ボディジュエル						
課目名(英)	bridal stylist course (Body jewel)						
単位数	5単位	時間数	50時間の内6時間	担当者	重松 愛子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	雑誌、広告関係、ファッションショー バックステージ、ブライダル現場経験		
対象学科・学年	美容科 2年次						
授業概要	ブライダルやイベント、パーティーシーン、成人式等で華やかな演出ができ、デザイン提案～施術迄が出来るようになる。						
授業形式	講義:	演習: △	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○			花・蝶・リボン・ハートの様々なデザインを基本に制作することが出来る。	
			○			ウエディング、パーティ、成人式等のイベントに限らず、日常・非日常のどのようなシーンでも使用できるボディジュエリー”テクニックを身に着ける	
			○			道具の手入れ、片づけなど積極的に取り組むことが出来る	
テキスト・教材 参考図書	ボディジュエリーデザイン画 ボディジュエリー教材一式(シート、鉛筆、アート筆、ラメパウダー、グルー、アセトン、コットン、ビニール)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1. 2	相モデル ボディジュエリーとは。ボディジュエリーのニーズ。教材説明。 花のデザインを転写～グルー塗布～ラメパウダーで仕上げる				道具の手入れを確実に 特にブラシについたグルーの手入れを入念に行う	
	3. 4	相モデル 簡単な花と蝶を転写～グルーとラメパウダーの使い方。グラ デーションに挑戦(花卉制作)・片付け方 ※ウッドスティックの 使い方				道具の手入れを確実に 特にブラシについたグルーの手入れを入念に行う	
	5. 6	相モデル(ドール使用併用) ブライダル用ボディジュエリー ウエディングドレスに合わせた白 を基調とした花の制作① ※実技テスト				道具の手入れを確実に 特にブラシについたグルーの手入れを入念に行う	
評価方法	(1)授業の中で実技テストを実施する。(2)作品の完成度が高いこと。(3)所作を丁寧に行い道具の手入れなど積極的に取り組んでいること。以上を下記の観点・割合で評価する。 S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		実技テスト		○			50%
		発表・作品		○			40%
		所作・道具の手入れ		○			10%
履修上の注意	出席が4/5に満たない場合は実技試験の受験資格を与えない。						